

## 実践報告 札幌市立真駒内公園小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「自分」を大切に、「ひと」を思いやることのできる子どもの育成  
～自尊感情を高めることを軸とした人権の授業づくり～

- 命の尊さを理解し、自分の命も、他者の命も大切に感じることができている心情を育てる。
- 自分や相手を尊重する実践的態度を育てる。

### (2) 実践内容

【実践① 4年生「チャレンジライフ」(総合、道徳、国語)】

#### ○ ねらい

- ・ 一人一人の違いを理解し、互いに尊重して共に生きることの大切さを感じ、これからの自分の生活に生かそうとする。
- ・ 障がいのある人の暮らし方や生活の場である地域について調べ、そのような人々に対して進んで関わることの大切さを感じ、自分にできることを考え取り組むことができる。

#### ○ 学習内容

- ・ 視覚障がいのある人の生活について調べ、その立場で地域の施設を見学したり人にインタビューしたりする活動を通して地域を見直し、安心して暮らすために大切なことを「設備の設置」と「自分たちのかかわり」という視点から考える。
- ・ 聴覚障がいのあるゲストティーチャーからお話を聞くことで、障がいのある人にとって「本当の親切」とは何か、今の自分にできることは何かについて考える。



【実践②】5年生「心の健康」(保健、道徳)

#### ○ ねらい

- ・ 体の発達とともに、心も発達している自分を見つめ、周りの人とともに前向きに生活していこうとする。
- ・ 心の発達について関心を持ち、不安や悩みへの対処について理解し、人との関わり方を見つめ直そうとする。

#### ○ 学習内容

- ・ 心がどのように発達するのか自分の体験をもとに考え、思春期の心や人との付き合い方について考える。



- ・ 思春期は心が不安定になることも成長の一つであることを実感しつつ、自分の感情をコントロールし、相手を理解しながら自分の気持ちを伝えることの大切さを家族との関わりを通して考える。
- ・ 心と体の状態がお互いに関係し合うことを理解し、不安や悩みを抱えた時の適切な対処法について話し合う。

### (3) 研究のまとめ

#### ①成果

- ・ 保護者、町内会関係者、校区内の商店や飲食店、NPO「水辺の楽校」、子育てサロン、保健センター、大通高校国際クラス、札幌市豊平川さけ科学館など、地域の協力を得ることで、本校の「継続的な活動」として定着してきている。
- ・ 地域を学習の場とし、保護者や地域の方々など、様々なゲストティーチャーとのふれあいを通して、児童は学級や学年の友達同士だけでなく、様々な立場の人との共有体験を重ね、自尊感情が向上していると考えられる。
- ・ 開校3年目の今年度は、昨年度までの実践から見えた成果と課題を元に学習内容を再構成し、研究会を開催した。助言者や授業協力者の先生方に加え、市内の先生方に授業を見ていただき、ご指導を賜った。その結果、本校が目指すべき人権教育の方向性が確かなものになってきた。

#### ②課題

- ・ 子どもの自尊感情を養うためには、学習を積み重ねていくことが大切である。そこで、なぜ本校が人権教育に取り組んでいるのか、「真駒内公園小学校の人権教育」とは何なのか、今後職員の入れ替わりがあったとしても、全職員が認識を共有しながら進めていけるよう、実践とその成果と課題を引き継いでいく必要がある。
- ・ 地域での学習を大切にすることで、調査活動の範囲が広く、グループに分かれての活動となるため、先方の日程と引率の人員確保の調整を行う必要がある。場合によっては、保護者に協力をお願いする。
- ・ 短期間で成果（子どもの育ち）が見えにくい面がある。評価や実態の捉え方について、より具体化できるとよい。

#### ③提言「人権教育のすすめ」

- ・ ほとんどの学校で地域を学習の場とし、様々な施設や人材を学習活動に生かしていると思われるが、その際、その人の思いについて考える場を設定したり、一方的にお話を聞くだけでなく、一緒に何か活動をしたりすることで、児童は「〇〇の人」から「〇〇の△△さん」のように地域の具体的な「人」に愛着をもつことができる。
- ・ 学習時間だけでなく、朝の会などでスクールガードなど地域の人と学校との関わりを紹介することで、児童は保護者や教職員だけでなく、地域の人たちからも愛され、見守られているということを実感し、自尊感情を高めることができる。